

市民との共同と提案で、市政を動かす!



いぬい紳一郎議員 小田桐たかし議員 徳増きよ子議員 植田 和子議員

流山民報

2018年 4・5月号 NO.195号

流山市加4-1688

TEL/FAX (7157) 6140

日本共産党 inui-jcp-toukatu@nifty.com

流山市議団 <http://www.nagareyama-jcp.jp/>

流山市議会事務局 TEL (7158) 1111

ご意見・ご要望を
お寄せください

流山市議会の第1回定例会（2月15日～3月19日）がおこなわれました。日本共産党流山市議団は、市民との共同と提案で市政を動かす先頭に立って奮闘しました。

2校～3校分の児童詰め込み 少人数学級も後退

「新設校1校では足りない」と提案

教育実践に基づけば、最大48学級での学校運営や、少人数学級から国基準（1学級40人）に戻すなどはもってのほかです。

いま現場では、「水道の蛇口が足りず長蛇の列、給食前に手が洗えない」「昼休みに自由に外遊びができない」「児童クラブの人数が急増し、支援員が名前も顔も覚えられない」…。過大規模校における児童生徒への影響・課題に向き合い、より良い学校環境の整備が今、求められています。

子どものために、先生・保護者・地域のネットワークを広げましょう。



税等の 徴収

生活困窮者へも 過酷な取り立て

生活困窮者に対しては、今より生活を悪化させないよう対応すること、事業者に対しては、事業の存続を前提にするというのが、関係法令にもとづく国等の方針です。

ところが、滞納がある中小業者が、信頼できる人と一緒に市役所に相談に行ったところ、債権回収対策室は「当事者以外の同席は違法だ。警察を呼ぶぞ」と大声を上げる対応。また、生活保護利用者に対しては差し押さえを強行していました。

病気で仕事が出来なくなり、収入が激減した滞納者への違法性疑われる過酷な取り立ては断じて許せません。

母子保健の拡充を党市議団が要求 妊婦面談、産後ケアが前進

年間の母子手帳発行数が1900件を超え過去最高に。妊娠から出産・育児まで切れ目のない支援が、今ほど求められている時はありません。

党市議団は産後ケアや妊婦全員との面談などを提案。保健師が近隣市と比較して少ない実態を告発しました。

当局の努力もあり、昨年10月から産後ケアがスタート。妊婦面談件数も大きく増加し、保健師の増員が前進しました。

